

# 誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和7年5月1日現在

江戸川区立一之江第二小学校

全国学力・学習状況調査		
A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和8年度の目標	65.0%	60.0%
令和7年度の目標	63.0%	58.0%
令和6年度の結果	58.5%	54.1%
令和5年度の結果	57.3%	57.3%

令和6年度江戸川区学力調査結果		
A・B層の割合		
学年	国語	算数
第6学年	54.1%	57.8%
第5学年	59.6%	51.6%
第4学年	70.7%	66.9%
第3学年	65.9%	57.3%



## 目標達成に向けた取組

	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3学年以上の学年で教科担任制による指導を行うことで、教員の担当する教科の指導力の向上を図っていく。教科部会を学期に1回以上行い、教科の特性に応じた指導のポイントを共有したり、互いの授業を見合ったりして、実践を通して学んでいけるようにする。</li> <li>・ipadの効果的な活用について研修をしたり、情報共有を積極的にしたりしていく。</li> <li>・本校が一校目の教員を対象に、のび研を行い、若手教員が指導力向上に向けた課題を自分で設定し、年間を通して取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字強化週間を年3回行い、当該学年の漢字の確実な定着を図る。</li> <li>・東京ベーシックドリルの診断テストを年6回実施する。診断テストの結果を学習カルテに記録していくことで、自己の伸びを実感できるようにする。</li> <li>・東京ベーシックドリルの結果をもとに、計画的にパワーアップモーニング等の時間を活用して復習に取り組ませていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸川っ子syudy weekの取組を学期に1回行い、家庭学習習慣が身に付けられるようにする。</li> <li>・家庭学習の学習時間の目安として、「学年×10+10分」を行っていくように、1学期の保護者会だよりに記載するとともに、保護者会でも確実に伝える。</li> </ul>
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を確実に定着させることができるよう、一人一人の子供の学習状況や理解度などを把握し、指導改善を行っていくようにする。</li> <li>・席順を教室の前方にすることやグループ編成等を考慮して、学習内容の理解を促していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字強化週間において、ノートやプリントへの取り組み状況を把握し、個別に支援したり、保護者と連携したりして家庭学習にしっかりと取り組んでいけるようにする。</li> <li>・放課後補習事業者と連携して、C～D層の児童の学力の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の取り組み状況が良くない子供には、個別に家庭への連絡を行い、しっかりと取り組んでいけるようにする。</li> <li>・他の児童と同一の課題に取り組むことが難しい児童には、内容や量を調整して、取り組ませるようにする。</li> </ul>
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童アンケート」において、「授業で積極的にipadを活用している」の肯定的回答割合90%以上</li> <li>・「児童アンケート」において、「教科担任制による授業は分かりやすい」の回答割合を90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末実施の漢字のまとめテストにおいて、正答率60%以下の子供の割合1～3年生5%未満、4～6年生10%未満。</li> <li>・年度末の東京ベーシックドリルの診断テスト正答率60%未満の割合10%未満。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童アンケート」家庭学習が「学年×10+10分」を超えている回答割合90%以上。</li> </ul>